

第1回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年2月7日(月) 9:30~10:50	
開催場所	町田市立鶴川第三小学校 視聴覚室	
出席者 (敬称略)	委員	豊田委員、杉山委員、平城委員、槇田委員、大堀委員、土手委員、北川委員、竹村委員、田中委員、大隅委員、浅沼委員、◎鰐坂委員、井上委員、○悴田委員 (◎会長 ○副会長)
	事務局	石坂学校教育部長、小池指導室長、田中教育総務課長、小宮教育総務課担当課長、平川施設課長、田村学務課長、押切保健給食課長、林教育センター所長 (教育総務課総務係) 岡崎担当係長、田中担当係長、京増主任 (委託業者) 株式会社教育施設研究所 高松 株式会社梓設計 鈴木、古田、今井

議事内容

1 学校教育部長挨拶

学校教育部長 この基本計画検討会は、学校統合を進めるに当たり検討が必要な課題について、保護者の方、地域の方、教職員の方を交えて検討するために設置するもの。

ここで検討する課題には、さきで開催した意見交換会で寄せられた意見や質問、具体的には通学の負担軽減や通学路の安全対策、統合前の事前交流をはじめとした人間関係の負担軽減、新しい学校名の候補、学校ごとの歴史の継承のほかに、地域コミュニティの活性化につながるような施設のあり方、具体的には、学校の今後の運用方法も含めて検討していく予定。

新たな学校づくりとは、建て替えた新しい建物のことを言うだけでなく、地域の拠点となるよう、その運営方法も併せて一新するものである。

鶴川西地区は、ほかの3地区と併せ検討開始する一番手となる。町田市内の他の地区に限らず、日本中に誇れるような新たな学校をつくっていききたいので、各委員のご協力をよろしくお願いいたします。

2 鶴川西地区 新たな学校づくり基本計画検討会の設置について

教育総務課 (資料1説明)

(会長、副会長の選任)

3 基本計画検討会委員自己紹介

(各委員自己紹介)

4 新たな学校づくりに関する基本情報及び鶴川西地区の新たな学校の概要について

教育総務課 (資料3~4説明)

委員 図書館の機器を充実し開放的にすることには賛成だが、資料4にある「ラーニングセンター」という記載について、今の説明を聞いて初めてこれが図書館であることが分かった。一般的な呼称である図書館の方がわかりやすく良いのではないか。

委員 鶴川第四小学校の敷地は鶴川第三小学校のように高低差が無く広い形ではないため、今でも校舎の構成が非常に複雑になっていると思うが、この資料のようなたくさん要素を含んだ設備を備えた学校をきちんと建てられるのか。

また、先ほど話のあった図書館について、小学校に立派な図書館ができることで、現在鶴川団地のショッピングセンターにある市立図書館が閉館するようになると地域の人は困ると思うので、両立をしてほしい。

委員 とても明るくてすてきな校舎ができるといいなという期待が膨らむ。色々な施設が新しく整備されるというのは分かったが、その前提としてユニバーサルデザインやバリアフリーといった観点がしっかり備わっているのか教えて欲しい。

委員 今意見があった鶴川第四小学校の校地の形状について、鶴川第三小学校の校地のほうが長方形でいいと思うが、鶴川第四小学校には校庭の奥に、鶴の台と呼んでいる斜面があり、校庭として整備すれば大分広くなる。また、例えば屋上プールにするというようなことも考えられる。過去には最高で37学級、特別支援学級も含めると39学級の教室を使っていたことがある学校であり、それが統合しても18学級の学校になるわけなので、スペース的には十分であると考え。

そのため、新たな学校を検討するにあたって、スペース的に余裕があるならば周りの町内会の人たちが活動に使用できる部屋を学校の中に設置してもらえると、地域と学校との連携というのが進むのではないかなと考える。

委員 資料4の3ページに掲載している児童数の変化を見ると、2030年度には鶴川第三小学校が12学級、鶴川第四小学校が12学級、合わせて24学級になると思うが、これを18学級に収めるということが可能なのか。

施設課長 図書室の名称に係るご意見について、新たな学校では一般的な学校の図書室をこれまでよりも広くし、視聴覚室のようにスクリーンに投影して色々な授業ができる施設を図書室に併設することを想定しており、一体としてラーニングセンターという名称としている。あくまでも学校の図書室機能を充実させるものであり、ラーニングセンターを設置することで地域の図書館と統合するようなものではない。

鶴川第四小学校の土地の形状について。東京都内では、鶴川第四小学校の土地よりもっと狭いところでも様々な工夫をして、今回の新たな学校づくりと同じような構想で建てている事例がある。委託業者はそのような先行事例を持っており、そういった知見を生かして鶴川第四小学校の土地に合う学校をつくっていきたいと考えている。

ユニバーサルデザインとバリアフリーの視点については、これらを備えた学校を建設していくのでご安心いただきたい。

統合時の学級数について。鶴川第三小学校と鶴川第四小学校の学級数をそのまま足すと2030年度は24学級になるが、こちらは現在の通学区域のままで推計であ

り、実際には現在の鶴川第三小学校の通学区域の一部は鶴川第二小学校と統合することになる。また、現在、各校では例えば1クラスの児童数が21人のように、1学級の上限の児童数まで余裕がある学級もあり、統合する際はそれぞれの児童を合計し学級数を計算し直すことから、学級数は単純に合計するよりも少なくなると見込んでいる。新しい通学区域で推計した児童数で学級編成した規模に必要な施設を確保できると考えている。

地域の人が利用できる施設を備えた学校整備について、新たな学校は地域の拠点となる学校づくりを目指しているの、そのためにはどのような工夫が必要か皆様の意見をいただき、反映していきたいと思っている。

委員 資料4の「新校舎の概要」について、校庭という記載がないが校庭はまた別問題として捉える機会があるのか。先ほどご意見のあった鶴の台など、子どもと校庭というのはすごく密接なので、校舎の一部と捉えるのか別なのかというところをお聞かせいただきたい。

施設課長 新たな学校は教室を広くすることなどから大きな校舎になることが想定されるが、校地の中に校舎をどのように配置するかなども一体として検討することで、校庭が狭くならないようにできる限りの工夫をしていきたいと考えていることから、資料には掲載していない。

委員 1点細かいところだが確認したい。同じく資料4「新校舎の概要」の③特別支援学級について、そのときの就学状況によって算定していくとなっているが、鶴川第四小学校には知的と情緒の特別支援学級があり、その中でもさらに少人数に分けて指導している関係から4～5教室使用している。このような現状を踏まえてしっかりと部屋数を確保できるのかお聞きしたい。

施設課長 特別支援教育を所管している教育センターや学校と連携して検討していきたい。

委員 鶴川第四小学校は崖のそばにあることから耐震が心配。新たな学校を建設するにあたって補強する考えはあるのか。

施設課長 擁壁についてのご意見と理解した。土砂災害の心配がないように、いわゆる土砂災害特別警戒区域などは、今回の新たな学校づくりにおいてできる範囲のものについては対応していきたい。

5 基本計画検討会の検討事項及びスケジュールについて

教育総務課 (資料5説明)

6 新たな学校づくり意見募集の実施について

教育総務課 (資料6説明)

委員 学校統合についてはその地域の方々、特にこれから小学生になるというご家庭にとっては大きな問題だと思うので、このように意見募集をすることは良いと思う。1点確認したいのは、この検討会では学校統合に対して賛成するか反対するかということについて議論するのか、それとも教育委員会の現在の考えが最終決定でその後

の検討を進めていくのか、どちらなのか伺いたい。

教育総務課

まず、この検討会を開催する前段として、教育委員会で「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定した。この計画では、想定統合年度や新校舎使用開始目標年度などを定め、順次学校統合と新しい学校建設を行っていくこととしており、この計画に基づいて新たな学校づくりを推進していくことは決定しているものをご認識いただいてよい。

今後、この計画を見直さなければいけない事情が生じる可能性はあるが、現時点ではこの計画は決定事項であり、本検討会は、この計画に基づいて子どもたちにより良い教育環境を作っていくためにどうしていくか、委員の皆さんと一緒に検討をしていく会である。

委員

私はもう五、六年前から統廃合はいつか必ずしなければならないということを書いてきた。教育委員会が市全体のことを考えて作り出した案に対して、今後様々な意見が寄せられると思うが、この計画の考え方などを丁寧に説明して進めていくことが大切だと思う。

7 今後の基本計画検討会の開催日時・場所について

教育総務課

(資料7説明)

8 第2回基本計画検討会開催概要

教育総務課

2022年3月28日開催予定。

9 閉会

会長

(閉会の挨拶)